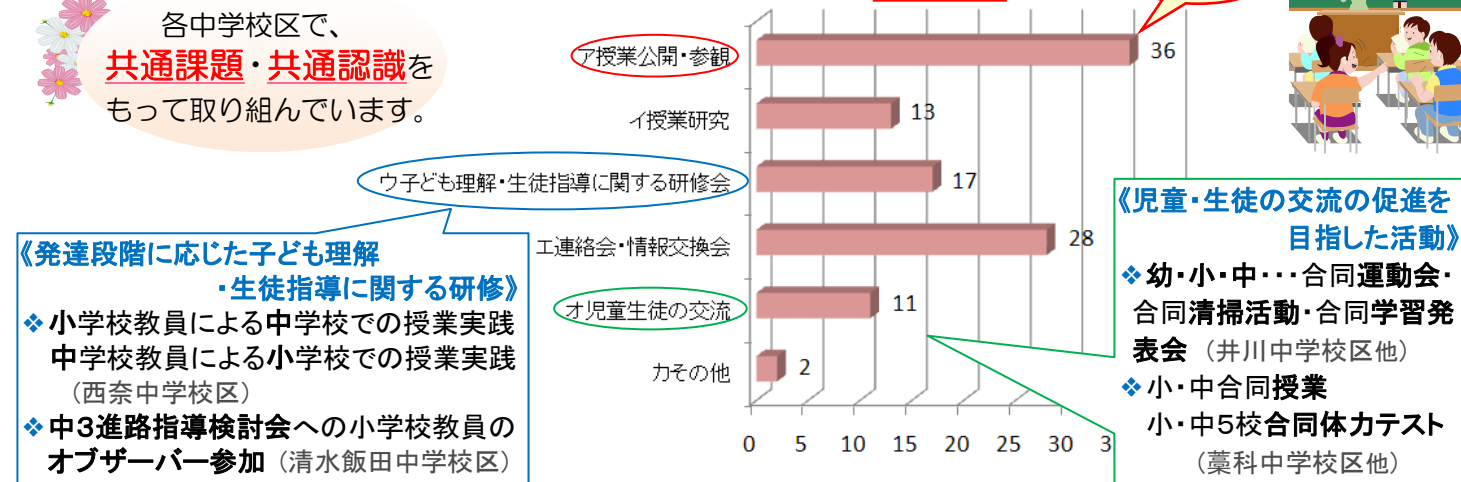


H23年度 近隣校研修レポート

～平成23年度「近隣校研修実施計画書」から見た各地区の取組～

各校から提出していただいた「近隣校研修実施計画書」を集約したところ、ほとんどの学校で**中学校区における小中連携**が計画されていました。近隣校研修が目指す**義務教育9年間の学びの連続性の保障**や**その地域の子どもに共通する課題の解決**に向けて、**小・中連携の取組**が着実に進められています。

近隣校研修小中連携の研修内容 (43中学校区での調査) **約8割**



今年度も多くの地区で**夏季休業中に授業案検討**や**講演会**が行われ、**秋に公開授業・分科会**を計画中です。

近隣校研修実践事例

各地区で行われた「夏季合同研修会」の取組の一部を紹介します。

他校の先生方と一堂に会して目的や課題を共有し、共に学び、語り合うことで、お互いの指導についての情報交換ができ、より広い視野での気づきを得ることもできました。

学習指導にかかわるもの

7/29(金) <藁科中学校区>

午前：**小・中合同の分科会**
小・中学校での生活や学習活動での理解を深めると共に、共通した視点で藁科地区の子どもたちを育てることを認識しました。

午後：**講演「文学的文章の系統性」**
関西大学初等部教諭 学校図書館教育主任 塩谷 京子氏

国語科文学的教材の学習で、**どのような力を、どのように系統的につけていくべきか**理解を深めました。



8/3(水) <西奈中学校区>

講演「論理的思考力・表現力を育てる言語活動の充実」～9ヶ年を通して子ども話し言葉を鍛える～

常葉学園大学教育学部 教授 中村 孝一氏
授業形式での講話を通し、**9ヶ年を通して常に話し方・書き方の構成を意識した指導が必要**であることを学びました。

言語活動は結論を出すだけでなく、**根拠の違いを話し合う**ことが大事！

三指導部会や秋の異校種交流授業に向けた授業内容の検討も行いました。



8/5(金) <清水第一中学校区>

講演「学習指導要領の改訂をふまえた学校教育のあり方と、義務教育9年間で子どもたちを育てるための小中学校の連携のあり方」

横浜国立大学教育人間科学部 附属教育デザインセンター 主任研究員 白井 達夫氏
今、求められている小中連携は、**学び方と学習意欲の接続をはかる**ことです。



小中合同の**スゴロクトーク**を行うことで、お互いの学校の様子や先生自身のことを語り、**仲間意識が高揚**！

成果 9年間を通して子どもを育てる意識が高まり、各学年でつきたい力を明確にすることができました。

子ども理解・生徒指導にかかわるもの

8/2(火) <清水飯田中学校区>

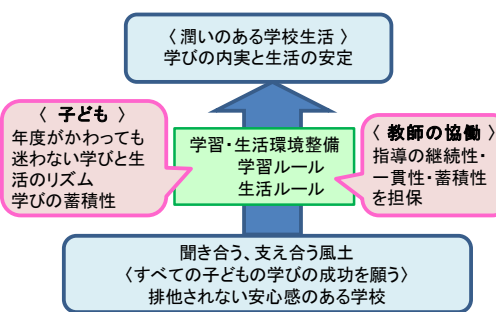
講演「飯田地区の効果のある指導と組織的展開」～9年間の心をつなぐ教育をベースにして～

鳴門教育大学大学院 教授 久我 直人氏

飯田中学校区は、**凡事徹底の一つ一つの丁寧な指導と先生は味方の存在**という認識を子どもの中に蓄積することが必要です。

小グループに分かれて、飯田地区でできる9年間を見通した教育環境について考えました。

飯田学区の小中連携のイメージ



成果 地区の子どもの特性を知り、異校種間の指導の違いに対する相互理解が図れました。

8/3(水) <安東中学校区>

グループ協議：小中学校の連携

協議内容は、生徒指導・中1の様子・宿題・問題行動について...など多岐にわたりました。情報交換を通して、他校の様子を知りました。

グループ協議で話し合った内容について、**理論と具体的な実践が結び付いた講話**をいただきました。

講演「発達段階に応じた子どもの指導」

東京都立川市立 立川第一中学校長 島崎 政男氏

心理的事実は受け入れ、**客観的事実は指導**することが大事です。
生徒指導や教育全般につながる基礎・基本的かつ新しい視点をいただきました。

8/3(水) <清水小島中学校区>

グループワーク1 「地区の子どものよさと課題」



山間地ならではの「人間関係が固定化しやすい」「大人数の前で自己表現しづらい」等といった課題を明らかにし、その対策を幼・小・中の先生方で明らかにしていきました。

グループワーク2 「各校・園における取組」

6月に行った清水小島中の**公開授業を踏まえてのグループワーク**なので、非常に具体的な話し合いが行われました。また、幼稚園の先生も参加し、**12年間を見越した対策**が練られました。

特別支援にかかわるもの

8/3(水) <服織西小・南藁科小 藁科幼 合同研修会>

講演「こどもの笑顔のために、ワカリヤスク伝えていますか？」～支援が必要な子への具体的支援方法～

静岡市発達障害者支援センターきらり 支援員 内藤 一樹氏

子どもの行動を評価できるのは教員だけである。**行動の記録を取ることが子どもの支援になります。**



成果 児童・生徒の発達段階、変化の理解が図れ、支援が必要な子どもたちにできる配慮のヒントを得ました。

8/5(金) <清水第二中学校区>

講演「発達障害の支援の実際」

静岡市発達障害者支援センターきらり 支援員 稲葉 俊彦氏

発達障害の子どもは異なった指導をされた時に大きく混乱します。ゆえに、**個の指導について組織で話し合っ**てすすめていくことが大切です。



講演会の後、清水二中学区の子ども指導や学習指導、保護者・地域の対応等について4グループに分かれて話し合いました。また、**特別支援教育の考え方を生かした学級指導**について考えました。

8/12(金) <宮竹小・南中合同研修会>

講演「特別支援教育で学級担任ができること」～児童・生徒のソーシャルスキルトレーニングを中心として～

小・中合同研修はとて**も大事です。もっている情報をお互いに交換する機会にし、ライフステージに応じた対応**を心がけてください。

国立特別支援教育総合研究所 企画部総括研究員 笹森 洋樹氏

スキルトレーニングは、ゲームで終わらず、日常生活につなげることが**大事**。何を学ぶかよりも**何のために学ぶか、必要性を理解させる**ことが大切。

集団生活で育っていく力、子どもへの支援の基本的な姿勢等を学びました。



宮竹小と南中で進めているよりよい人間関係作りの研修を深めるために実施。